令和７年産
小麦技術情報No.１

令 和 6 年 9 月 11 日
巻農業普及指導センター

～播種作業までのポイント～

○ 小麦は湿害に弱い作物のため、**排水対策が必須**です。
周囲明渠、補助暗渠などの排水対策は、前作物の刈り取り後、早期に実施しましょう。

○ 越冬前に適正な生育量を確保するため、**適期は種**に努めましょう。
また、**雑草防除**や、**は種後の秋期追肥**を適期に実施し、越冬後の茎数を確保しましょう。

１　ほ場の準備

小麦の作付けは、**ほ場の団地化を図り、周囲の水田からの流入水を防止**するとともに、**暗渠が施工された排水性が良好なほ場を選定**しましょう。また、降雨や融雪後のほ場内の停滞水を短時間で排除するため、**周囲明渠、補助暗渠などの排水対策を確実に実施**しましょう。

（１）排水対策

○ 周囲明渠

・額縁に沿って幅30cm、深さ30～40cm程度の溝を設けましょう。

・明渠と排水口は必ず連結させましょう。

○補助暗渠

・弾丸暗渠や心土破砕（サブソイラなどによる）が一般的で、施工により地下排水の速効性が期待できます。
深さ30～45cm、間隔1～3mとし、本暗渠と直交させましょう。

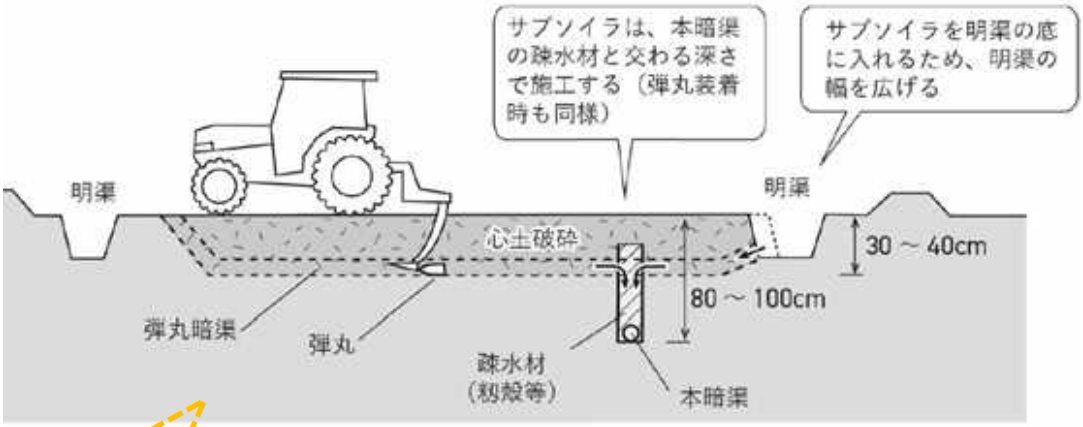

図１：補助暗渠の施工例

【参考】
令和5年度実証ほでは、排水対策を徹底した場合、収量及び千粒重の向上が確認されました。

	穂数(㎡)	収量(10a)	千粒重
排水対策区	**432 本**	**525 kg**	**42.2 g**
未 実 施 区	369	437	41.7

（２）酸度矯正

・小麦は酸性土壌では生育不良となるため、石灰資材の施用により酸度矯正を行いましょう。（目標：pH6.0～6.5）

表１：土壌pHを1.0上昇させるために必要な石灰質資材施用量の目安

石灰質資材	アルカリ分保証%	面積10a×深さ10cm当たり必要量(kg)			
		砂壌土(SL)	壌土(L)	埴壌土(CL)	埴土(C)
生石灰	80	110	170	220	280
消石灰	60	150	220	300	370
炭カル	53	170	250	340	420
苦土石灰	55	160	240	330	400

※　アレニウス表による炭酸カルシウム施用量から算出。

（３）基肥

・基肥の標準施肥量は10a当たり成分で
窒素４kg、リン酸８～10kg、カリ３～４kgです。

・ドリル播では側条施肥が早期の茎数確保に有効です。

２　は種

早期に有効茎を確保し、越冬前に十分な生育量を確保するために、適期は種を心掛けましょう。
また、は種様式は、**ドリル播が出芽・苗立ちや生育・収量が最も安定**します。

（１）耕起・砕土・整地

・出芽・苗立ちを安定させるため、**砕土率（２cm以下の土塊重量割合）を70%以上**に高めましょう。一方、粘土質のほ場では、砕土率が高すぎると、は種後の降雨で土がしまりやすくなるので、**大豆跡では砕土率が高くなりすぎないよう注意**してください。

・土壌水分が高い時に耕うんを行うと、土を練り返して透水性を悪化させるので、数日晴天が続き土壌が乾燥した状態で作業をしましょう。

・降雨の影響を避けるため、耕起からは種までの作業は１日で行いましょう。

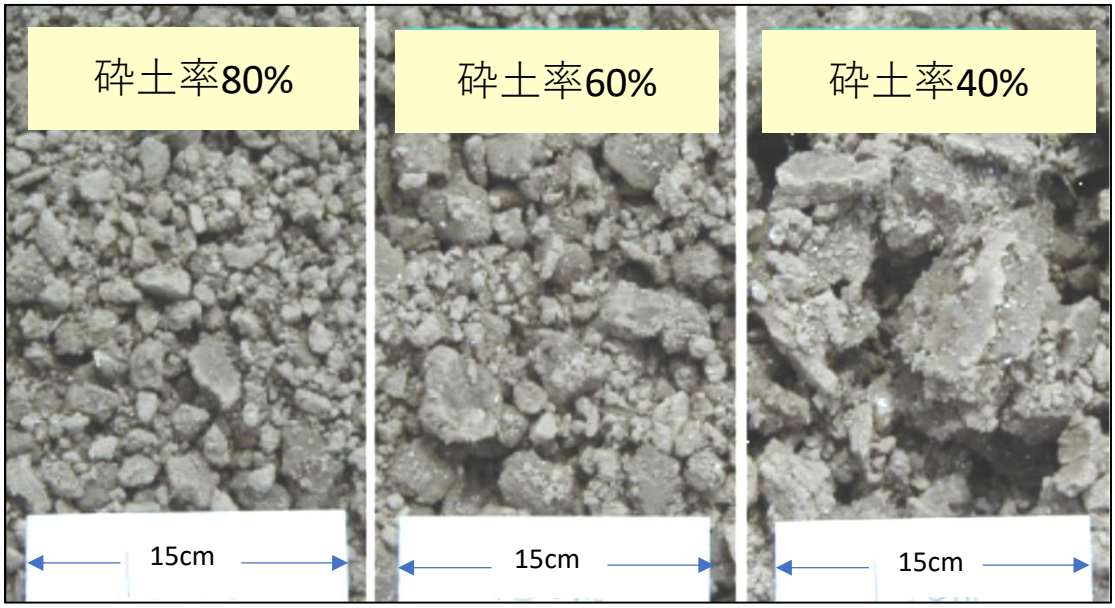

図２：砕土率（70%）のめやす

（２）種子消毒

・種子伝染性病害(裸黒穂病、なまぐさ黒穂病、堅黒穂病※、斑葉病※、雲形病※)は生育期防除が困難なので、必ず種子消毒を行いましょう。
【参考】※はオオムギの病害

（３）適期は種のめやす

は種適期	は種様式	は種量 (kg/10a)	苗立率 (%)	苗立数 (本/㎡)
9/25～10/15	ドリル播	8～10	90	180～230
	全面全層播	12～14	60～70	180～250

・雪害の回避と良質茎を確保するため、適期は種を心掛け、越冬前生育量を確保しましょう。（越冬直前の生育量：葉数５葉以上、乾物重15g以上）

・は種量が多すぎると細・長稈となり倒伏を助長します。
一方、は種量が少ないと穂数の確保が難しく減収の要因になるだけでなく、雑草が発生しやすくなります。
このため、目標苗立ち数を確保するよう、は種量を調整しましょう。

３　秋期追肥

越冬前に茎数を確保するため、原則として秋期追肥を実施しましょう。
ただし、地力が高く茎数が過剰となりやすいほ場は、細麦粒の発生が懸念されるため、追肥量を調整しましょう。

（１）秋期追肥前の対策

・排水不良ほ場では、秋期追肥施用の前に明渠の補修など排水対策を徹底しましょう。
過湿状態は黄化の発生を助長するだけでなく、根の養分吸収能力が低下したままで追肥をしても、効果が期待できません。

（２）施用量・施用時期

施用量	施用時期
窒素 2kg	は種後２週間～１か月（遅くとも11月末までに実施する）

・気温が４～５℃を下回ると追肥の効果が期待できないので、遅れずに施用しましょう。

４　雑草防除

ドリル播、全面全層播は、種子が覆土されているので、は種後に土壌処理除草剤を使用できます。**は種後すぐに作業を行い、確実な雑草防除を行いましょう。**

（１）は種直後の土壌処理除草剤

・除草剤の有効成分によって、イネ科雑草や広葉雑草など草種に対して効果の良否があるので、ほ場に発生する雑草種に応じて除草剤を選択しましょう。

・**イネ科雑草のスズメノカタビラは、生育期処理除草剤では除草効果が劣ります。スズメノカタビラが多発するほ場は、は種直後の土壌処理剤で確実に防除しましょう。**

（２）生育期処理除草剤

・生育期に雑草発生が多い場合に使用しましょう。